

論 文 内 容 の 要 旨

氏 名	椿 康輔
Molecular epidemiology and clinical characteristics of <i>Staphylococcus aureus</i> bacteremia in Japanese adults (和 訳) 日本人成人における黄色ブドウ球菌菌血症の分子疫学と臨床的特徴	

論文内容の要旨

背景：黄色ブドウ球菌菌血症 (SAB) は、特にメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) に起因する場合、臨床的に重要である。近年、黄色ブドウ球菌に占める MRSA の割合は減少し、メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (MSSA) の割合が相対的に増加している。そのため、SAB の微生物学および臨床的特徴を評価する際には、MRSA と MSSA の両方を考慮する必要がある。また、分子疫学と臨床的特徴との関係を調査した研究はほとんどなく、この関係は依然として不明である。そこで、日本人成人における SAB の分子疫学と臨床的特徴を調査した。

材料と方法：本研究は奈良県立医科大学の倫理審査委員会の承認を得て行った (承認番号 3812)。2015 年 1 月から 2017 年 2 月までの奈良県立医科大学附属病院における 18 歳以上の SAB 症例を対象とした。患者情報は電子カルテから参照した。保存株の薬剤感受性検査、毒性遺伝子解析、multilocus sequencing typing (MLST)、polymerase chain reaction-based open reading frame typing (POT) を行い、微生物学的特徴と臨床的特徴を統合した。

結果：実験期間中の症例数は 90 例 (MRSA 42 例、MSSA 48 例) であった。30 日死亡は MRSA で 8 例 (19%)、MSSA で 5 例 (10.4%) であった。死亡例は敗血症性ショックや播種性血管内凝固を合併することが多かった。MLST 解析によると MRSA 群では ST8、ST764、ST1、ST15 が主な ST 型であったのに対し、MSSA では ST5、ST188、ST12 が主な ST 型であった。感染性心内膜炎症例は、発症から有効な抗菌薬投与開始までの期間が長く、全例が MSSA であった。MLST と POT の結果はよく相関し、POT の方がより高い識別力をもつようにみられた。

結論：SAB の臨床的および微生物学的調査を当施設で実施し、重症度や死亡率などの臨床的パラメータと分離株の遺伝的特徴を明らかにした。限られた症例数にもかかわらず、特定の ST 型と SAB の臨床像との間に関係がある可能性が示唆された。また、MLST と POT との関連も明らかにした。SAB の疫学は、地域や時代によってかなりのばらつきがある。従って、臨床的調査と微生物学的調査を統合した継続的研究が必要である。